



留学生ホットライン ニュースレター 2020 No.28

目次

- 代表挨拶 P1
- 領事館からのメッセージ . . P1
- 留学生ホットラインについて . P2
- ボランティア募集 P2
- 2019 活動報告 P2
- Hero in LA P2
- 新人から一言 P3
- 2019 収支報告 P3
- 2019 ドナーリスト P3
- サポートのお願い P4
- ボランティアインタビュー . P4
- 知ってますか？TAP カード . P6
- アツシの世界の果てまで
不思議発見！メキシコ編 . . P6
- 編集後記 P7

代表挨拶

昨年、日本では令和元年を祝い、新たな時代に夢を描き期待に胸躍らせたわずか数ヶ月後、中国の武漢から発生したコロナウィルス、人々を恐怖に陥れているCOVID 19、は瞬く間に世界中に広がり、テレビや新聞では人々の恐怖を煽るように、毎日感染した人や死亡した人の数を発表、日に日にその数は増していつているようです。

止まる所を知らないCOVID 19の拡散防止対策として、各国政府は自国民に対し、外出禁止令や緊急事態を発令し、人々は自宅待機を余儀なくされ世界の経済は完全に停止。失業者の数も日に日に多くなって来ているようです。1日も早く終息してくれるようお願いにはいられません。しかし、こんな時こそお互いのコミュニケーションを密にし、お互いに助け合って過ごして行けたらと思います。

反面、マスコミではあまり報道されていない様ですが、コロナによる外出自粛のお陰で大気の汚染が劇的にクリアになっていると衛星写真から写した写真や、イタリアのヴェネツィアでは観光客が減って運河が透明化し、生態系が整い始めて来たと言う喜ばしいニュースもあるようです。恐れられているコロナですが、この様な良いニュースも沢山ある様ですし、意識を柔軟に保ち自分自身の直感で、良い面をも感じ取って行くという事も必要かと思えます。

今年、アメリカに留学して知識、見聞を広めようと、期待と希望に夢を抱いていた人たちも沢山いたのではないかと思います。この様な事態で、止む無く留学を断念された皆さんも、希望を失う事なく再度挑戦して頂きたいと思えます。そして、現在アメリカで勉強中の皆さんも、この様な状況の中ですが、日々快適な学校生活を送って頂けるようお願いしています。何かビザの件や生活をして行く中で、疑問や悩みなどありましたら、いつでもお気軽に留学生ホットラインにお電話いただければと思います。私共ボランティア一同、心を一つにして皆様のご期待に添えるよう頑張っていきたいと思えます。お電話お待ちいたしています。

代表 和田容生子

領事館からのメッセージ

在ロサンゼルス日本国総領事館が管轄している南カリフォルニア及びアリゾナ州には、留学のために滞在されている日本人の方も多くおられます。慣れない土地での生活では、緊張や不安から体調を崩したり、思いがけず事件や事故に巻き込まれてしまう可能性もあります。いつ起こるか分からない事故や災害、緊急事態に備え、緊急時の連絡先として、海外に3か月以上滞在される方は「在留届」に、滞在期間が3か月未満の方は「たびレジ」への登録をお願いいたします（詳しくは当館ウェブサイトをご覧ください。）。

新型コロナウイルス感染収束への出口が見えない状況が続いており、多くの方が不安やストレスを抱えながら過ごされていることと思えますが、在ロサンゼルス日本国総領事館は、これからも留学生ホットラインと協力しながら、皆さんの留学生生活を応援していきます。

在ロサンゼルス日本国総領事館 副領事 古橋 拓也

留学生ホットライン

Ryugakusei Hotline

231 E. 3rd Street Suite G-106
Los Angeles, CA 90013

Tel. (213) 473 - 1630

<http://ryugakusei.ltsc.org/>



留学生ホットライン

留 学生ホットラインは1991年の発足以来、言葉や文化の壁、治安やビザの問題などで悩む留学生が充実した留学生活を送れるよう、電話による日本語での情報照会を通してサポートしています。

ビザの問題をはじめ精神衛生、学校やハウジングのトラブル、健康問題や事故、犯罪関係の問題などに  ついて1万5千件以上の電話を受け付け、対応して来ました。また、2008年に日本政府より外務大臣表彰を授与されたことは望外の喜びでした。

ホットラインのスタッフは全員がボランティアで団体の主な財源はコミュニティーの個人及び諸団体からの寄付によります。

ボランティア募集

留学生ホットラインでは常時ボランティアを募集しています。

- ① リスナー（電話相談員）
 - ・日本語で電話対応のできる方。
 - ・毎週4時間以上、LA、リトル東京のオフィスで電話を取れる方。
 - ・一定期間（6ヶ月以上）続けられる方。
 - ・責任を持ってボランティアができる方。
 - ・所定のトレーニングを受けられる方。
- ② その他
 - ・イベントなどを手伝って下さる方。
 - ・専門や特技を活かし様々な仕事をして下さる方。
 - ・他にも何かの形で協力して下さる方。

◇ 年齢、職業等の条件はありません。

お問合せ：Tel. (213) 473-1630
月～金 午前10時～午後5時

2019年活動報告

◇ 相談統計

ビザ関係 23 (47%)	学校関連 9 (18%)	生活・ハウジング 9 (18%)
健康・精神衛生 6 (12%)	その他 2 (4%)	
女性 45%	男性 55%	不明 4%

◇ ボランティアトレーニング講習

2月2日	ビザ、移民法
9月14日	オリエンテーション・日系社会
9月21日	守秘義務・DV・調停・ハウジング
9月28日	精神衛生・移民法
10月12日	ボランティアの基本・ロールプレイ
12月14日	ロールプレイ・修了式

◇ ファンドレイジング

1月1日 お正月 in Little Tokyo にて募金活動

Hero in LA

左記は2019年の活動報告ですがボランティアトレーニングは2020年になっても継続して行なっています。領事館の方や様々な分野の方に協力して頂いていますがその中でも印象的だったのは1月にポリスオフィサーの  永田有理氏を講師にお迎えして犯罪、治安、交通等についてレクチャーをして頂いたことです。

有理さんは10代の時に日本から渡米、様々な経験を経た後、警察官になることを決意したそうです。ありとあらゆる職業をリストアップし、自分に出来ないと思うことを消していったら警察官が残ったという話は衝撃的でした。猛勉強とポリスアカデミーでの厳しい訓練に耐え抜いて警察官となり、ナイフで襲われたりしながらも6年経ったそうです。元々5年ぐらいたったら日系社会にも目を向けて役に立ちたいと思っていたそうで、本当に感謝と尊敬の念に耐えません。



今後も社会の安全安心のためにそのバイタリティーを活かして活躍されることでしょうか。是非応援して行きたいと思います。

新人から一言



昨年の夏に、偶然留学生ホットラインのことを知り、ボランティアを募集していることを知りました。留学生の方の悩みや不安ごとに少しでも寄り添うことができれば、と思い、参加させて頂くことにしました。

リスナーとしてはまだまだ未熟ですが、初心を忘れずにボランティア活動を続けて行きたいと思います。 MH



2019 収支報告



(収入)

寄付	2,714.40
募金活動	390.50
雑収入	1.70
計	3,106.60

(支出)

レント	1,700.00
会計手数料	610.93
切手、郵送費	218.75
プリンターインク	78.77
サプライその他	43.24
トレーニング費用	76.46
過不足	8.31
計	2,614.25
収支差引	492.35

2019年ドナーリスト

Donors

Allen, Machiko

Austin, Michiyo U.

Bower, John T. Irisa, Rieko

Cude', Mitsuko

Okawa, Chizu & Katsuyoshi

Ragu, Masayo I. Ragins Aka

Shibusawa, Tazuko

Suzuki, Reiko & Richard Y

Uno, Hideo

The Kass Foundation

*Consulate General of
Japan in Los Angeles*

Special Thanks

Global J Network

Lighthouse

L'ovest

Noguchi Law Office

Taki Law Office

Vivid Navigation

Hallenberg, Kiyoko

Hirakata, Hiromi

Hongo, Yoko

Irie, Kenji

Kuromizu, Nobuko

Mosher, Toshie M.

Narumi, Margaret T.

ご寄付のお願い

留学生ホットラインはコミュニティーの皆様からのご寄付で成り立っており、昨年も多くの人、団体からご支援を賜りました。ボランティア一同、感謝に堪えません。皆様からの貴重な御寄付は、留学生達のために大切に使用させていただきます。留学ホットラインの必要性を感じている方々がいて下さるという事実は、私たちボランティアを何よりも勇気付けてくれます。



近年、留学生の数は減少し、インターネット等を利用した相談方法が増えてきたこともあり、電話の件数は減っています。

しかし簡単には解決できない問題や心の悩みなど、電話で直接話を聞いて欲しいというニーズがある限り、留学生ホットラインの活動を続けて行きたいと考えております。

私共のその様な思いにご賛同いただけたら是非、当団体を通して留学生達を御支援下さい

ご寄付のご案内

ご寄付につきましては

- 1、チェックを郵送していただく場合、宛先は"Little Tokyo Service Center, RHL"と明記して下さい。
- 2、銀行振り込みの場合、下記の口座にお願い申し上げます。

Bank of the West Business Interest Checking Account
Little Tokyo Service Center (Ryugakusei Hotline)
Routing No. 121100782 Account No. 062246061



- 3、PayPalでのお支払いはご自分のPayPalのアカウントにログイン後、マイアカウントのページに行き Send Money の欄に ryugakusei@lts.org と入力して **Next** をクリック、金額を入力後、**Continue** をクリックして内容を確認した後 **Send Payment Now** をクリックして下さい。

ボランティアインタビュー

◇ 恒例となりました、ボランティアスタッフインタビューのコーナーです。8回目となります2020年は、相談員5年目のYさんにお聞きします。

▼ いつも留学生ホットラインを明るくポジティブに牽引してくれているYさんですが、アメリカに来た理由と、それまでの経歴を簡単に教えてください。



日本でのCA時代

▲ アメリカには夫の再就職で来ました。当時、私はCAをしていましたが結婚後、夫がバーレーンに駐在するのを機に会社を辞めて、バーレーンで4年間暮らしました。夫婦共にいずれは海外に住みたいという思いもあり、2014年に夫の再就職先のロサンゼルスにやって来ました。

▼ バーレーンでの面白いエピソードはありますか？

▲ イスラム国ですので新しい発見が沢山ありました。中東の国に住めたのはとても貴重な体験となりました。1日5回のお祈りの際には「アッラー」という声が街中に響き渡ります。また、当時は同時多発テロ前ということもあり、世界は穏やかでしたので、オマーン、ヨルダン、UAEなどの近隣諸国を周れたのは良かったですね。また、現地のフランス語学校に通ったり、ガーデニングクラブなどにも所属していたので、アラブ人の友達や、駐在で来ているイギリス人など、世界各国の人とのコミュニティーを広げることが出来ました。CA時代の仕事とバーレーンでの駐在期間の経験は、後にアメリカに渡ってから多めに役に立ちました。今現在、どんな人種の方や違う価値観を持つ方とも、お互いにリスペクトし合い仲良くなれるのはそういった経験に基づいた特技だと思います。

▼ Yさんはバーレーンのジャンヌ・ダルクと呼ばれていたようですが、そのように呼ばれるきっかけになった出来事を教えてください。

▲ それは現地で所属していたガーデニングクラブでのことです。そのクラブではインターナショナル・ガーデンショーと言うイベントを毎年開催するのですが、私がクラブに在籍した最後の年は経験者がとにかく不足していて、ショーの開催も危ぶまれるほど大変な状況でした。しかし、少数精鋭のイギリス人、経験が無いに等しいバーレーン人のメンバーとアメリカ人とそして私達日本人が一致団結して、今までにない最高のショーにしよう！と力を合わせて制作し、何とか開催にこぎ着けることができました。その結果、催しのスポンサーであるバーレーン皇太子から「こんなに素晴らしいショーを見たのは初めてです」とまで称賛していただきました！

バーレーン人や他のメンバー達と手を取り合って泣きました。「やればできる」を体験した瞬間でした。その他にも日本から華道の先生を招聘し、ガーデニングクラブで生花の講習会を開催したりしました。そんな事に夢中になっている内にいつしかそのようなニックネームで呼ばれるようになったようです。(笑)



ジャンヌ・ダルク



バーレーンのガーデンショー

▼ ボランティアを始めたきっかけは何ですか？

▲ 夫のビザの関係で就職することが出来ませんでした。何か社会に貢献出来ることはないか？とっていた時、ちょうど日本のフリーペーパーでボランティア募集の記事を見つけて応募致しました。

▼ ボランティアを始めて変化した事はありますか？

▲ アメリカに来たからと言って、日本を断ち切るつもりはありませんでした。むしろ、日本と関わっていたいと思っていたので、リトル東京にあるボランティアのオフィスに通えるのは嬉しかったです。また、ボランティアを通して、日本領事館との交流もあり、総領事公邸でのイベントにも参加するようになり、外側から日本を見るチャンスも増えました。日本に住んでいた時よりも、日本を身近に感じ貢献しているような気がしています。

▼ ボランティアで嬉しいことは何ですか？

▲ 相談が終了して電話を切る際に「電話して良かったです！」と言ってもらえた時が究極の喜びですね。それと、最高のボランティア仲間と出会えたことです！

▼ Yさんは、留学生ホットラインでは相談員の他に、ボランティアコーディネーター係も担当されていますが、ボランティアコーディネーターのお仕事内容、また苦勞している点などあれば教えてください。

▲ スタッフの皆さんがハッピーにボランティアを出来るようにサポートするのがボランティアコーディネーターのお仕事です。苦勞というわけではありませんが、常に心がけていることは、悩みやストレスのあるスタッフには、真摯に耳を傾けて、心に寄り添うようにしています。その中で思うことは、ボランティア全員が正直に意見を言い合えることです。それは、お互いを信頼していなければ出来ないことなので、コーディネーターの立場として大変嬉しく思います。

▼ 最後に、来年30周年を迎える留学生ホットラインですが、それについて、Yさんが個人的に思うことや、目標などがあれば教えてください。

▲ 日本の若者には海外に出て多くの経験をして欲しいと思っています。自分さえ幸せなら良い、自分の国さえ安全であればそれで良いでは、真実の愛と平和は世界には広がりません。今、コロナの問題が全世界を飲み込もうとしているのにも意味があるのではないのでしょうか？このような状況の中、先のことを不安に感じている人も多いと思いますが、仏法に「大悪が起これば大善きたる」という言葉があります。悪いことは良いことが起きる前兆と捉え、ピンチをチャンスに変えていこうとする教えです。目の前で起きている悪い出来事も自身の捉え方と努力で必ず乗り越えていきます。また、大変な時こそ、私達留学生ホットラインの

ボランティアスタッフは留学生の皆様のサポートをさせていただきたいと思っておりますので、いつでもどんなことでもお気軽にお電話をいただけたら嬉しいです。30周年という節目に在籍できることはとても光栄です。長きに渡り留学生ホットラインが続いたことはひとえに「仲間」であると思っておりますので、引き続き仲間を大切に、組織としても尚一層充実させていけたらと思っております。



自宅にてご主人と

知っていますか？ ローカル情報（ロサンゼルス編）◇Student TAPカード◇

こんにちは、留学生の皆さんの中にはバスや電車など公共交通機関を利用されている方も多いのではないのでしょうか。今回はロサンゼルス中心部の交通機関（Metro、バス）で使えるカレッジ、専門学校向けのStudent TAPカードについてご紹介します。

Student TAPカードはMetroのオフィスまたはオンラインで申請できます。

www.taptogo.net/Reduced_Fare#college

問い合わせ：Tel. 866-827-8646 (6) - 日本語 Monday - Friday 8PM - 4:30PM Closed Saturday - Sunday

MTAの料金は通常のTAPカードでは28日間で\$100ですがStudent TAPカードだと1カ月\$43です。

Student TAPカードはなんと\$57もお得ですが、更にお得になる情報をお知らせします。

学生は働けないため無収入（泣）なのでLIFE(Low Income Fare is Easy) Couponを申請すれば\$43→\$30(\$13 off)、または20 rides が無料になります。どちらかを選択できます。

LIFEの申請には、TAPカード、住所を証明できる書類（銀行からの手紙、学校が発行する証明書など）、身分証明書（運転免許証、パスポートなど）、収入を証明できる書類などが必要になります。

収入を証明する書類は学生であり、働けない、金銭的にサポートしてくれる人が米国にいないことなどを自分で書いて他の書類と一緒に指定されたオフィスに提出します。

問い合わせ：Tel. 323-870-8567

LIFEinfo@famecorporations.org

famecorporations.org/life/

LIFEの取得後、その情報がTAPカードにインストールされますがLIFEの割引料金でマンサリーの定期や切符を購入できるのはUnion Stationの窓口だけなのでご注意ください。

学生の皆さん、是非申請して美味しいランチを食べてくださいね。



世界の果てまでふしぎ発見! (その2 アツシのメキシコスクーバ天国編)

今年も旅行記を書く時期になりました。去年は南米旅ということで、ペルー、ボリビア、アルゼンチン、チリを好きなように約1か月間放浪していました。去年の南米に影響されたのか今年の冬も南米、今回はメキシコを旅しました。

今回の旅は前回とは違って、あらかじめ行きたいところを何個かリストアップしてからその場の時と場合に合わせて場所を決めて行く予定でした。候補はラ Paz(La Paz)、カボ・サン・ルーカス(Cabo San Lucas)、イズラ・ムヘレス(Isla Mujeres)、カンクン(Cancun)、コズメル(Cozumel)、そしてキューバ(Cuba)。これらの町はビーチやスク



本場メキシコのプレート

ーバダイビングで有名で、15歳のころからダイビングをしている自分にとっては人生で一度は行ってみたい場所でした。

12月中旬、大学も休みに入って数日がたったころ、いつメキシコに発とうか悩んでいました。周りからは「メキシコは危険な場所もあるから大丈夫？」などと心配されていて、出発がどんどん遅れていく気がしました。これはまずいと思い、次の日の飛行機を取って今すぐ準備することを決めました。持ち物は前回の経験から今回も少なめに最低限必要な衣類とダイビング機材、GoPro とドローンだけを持って次の日旅立ちました。

まず初めについた町はラパス、初日は夕方について街をぶらぶらしつつ、次の日のダイビングの予約を取ってゆっくり過ごしました。次の日、久々のダイビングに興奮しながらダイブショップに向かうと風が強すぎて船が出せないということでその日はする予定 だったウェールシャークとのダイブはキャンセルでした。次の日は少し風があったものの、ギリギリ船が出せるということだったので予定通りアザラシとのダイブ決行でした。人生で初めてダイビング中に野生の生き物と直接触れ合うことができるとても感動しました。アザラシはとても人懐っこくて、フィンだったり、指を広げるとあまがみしてくるくらい人慣れしていてとてもいい経験をさせてもらいました。ダイビング後はショップの店員やバディの人たちと情報交換をして、話を聞いていると次に行く予定 だったカボサンルーカスは人が多すぎて、ダイビングにはあまり向かないということと、そこからローカルタクシーを使って2時間くらいの秘境カボ・プルモ(Cabo Pulmo)がすごくいいという情報を仕入れたので、カボ・プルモでダイビングの予約を取り、カボサンルーカスへ乗り継ぎのためだけに向かいました。

カボ・プルモへの道は道とは言えないような道を小さなヴァンで2時間弱揺られながら向かいます。カボ・プルモはとても小さな村で、端から端まで歩いて10分くらいで行けるくらい大きさです。現地にホテルは1つもなく、ゲストはバンガローか民泊するしかできません。水や電気も制限されていて、不便ではありますが、この村にいる9割の人はダイビング目的なので、ダイバーにとっては夢の場所でした。そこでは野生のブルシャークと一緒に泳いだり、カラフルな魚の大群に遭遇したりしてとても記憶に残る経験ができました。



ドス・オホス

次に向かった場所は世界一の透明度を誇ることで有名なセノーテ(Cenote)のあるプラヤデルカルメン(Playa del Carmen)です。セノーテとは陥没穴に地下水が浸水してできた洞窟で、水が海水ではなく、純水のため透明度が異常に高く、さらに多くのセノーテは鍾乳洞を形成しているため、ダイビングをしつつ、鍾乳洞を目の当たりにできることで有名です。今回は数あるセノーテの中からドス・オホス(Dos Ojos)とタージマハ(Tajma Ha)の2つに行くことができました。それぞれ特徴的なことがいろいろあったのですが、中でもドス・オホスの地下鍾乳洞は、これまで見たことがある何よりも神秘的で圧倒されました。ダイブ時間は大体1時間から1時間半を1日2回、それでも1秒も逃したくないと思えるほどどちらも楽しむことができました。

もしこれを読んでくれていて、少しでもダイビングに興味があるなら絶対にお勧めしたい場所の一つです！！

その後はコズメルに向かいダイビングを数回して、カンクンでゆっくり過ごしてアメリカに戻りました。今回の旅はほとんどダイビングをしていましたが、前回の旅同様にダイブバディだったり道で優しくしてもらった人などと仲良くなり、色々な話をしながら新たな出会いもありました。実際にメキシコに尋ねてみてメキシコの自然の美しさだったり、人々の明るい笑顔を目の当たりにしたこと、メキシコをこれまで以上に大好きになりました。毎回旅に出て思うのは、ネットや本で見るモノと自分の目で感じることは全く別物だということです。これからも新しい未知の国に実際に行き、どんなものなのかを経験してみるのにはやめることができなさそうです。それでは次回の旅行記でお会いしましょう！



カンクン

編集後記

毎年ニューズレターの表紙の写真を何にするか考えるのに苦労しますが、去年は新元号に即決、そして今年はドーンと五輪マークで決まりということになっていました。

ところが一寸先は闇、新型コロナウイルスのせいで東京オリンピックが1年延期になるなんて本当に「まさか」という言葉がこれほどハマる事態を探そうとすればかの本能寺の変までさかのぼることになるでしょう。

結局表紙の写真は明るい未来への希望を感じさせる物にたくて空に向かって伸びる七色の虹をメインにしました。

そして一応、五輪マークも虹の向かう先に小さく配置しました。選手達のためにも全てのスポーツファンのためにもみんな虹の架け橋を渡って来年、元気を取り戻した社会で最高の祭典が行われることを願っています。



ミライワ

TT

RYUGAKUSEI HOTLINE

231 E 3rd St., Suite G-106

Los Angeles, CA 90013